

対島中学校 第2回学校運営協議会会議録

- 1 日時 令和6年1月19日（金）午後1時00分～午後2時20分
- 2 場所 伊東市立対島中学校図書室
- 3 出席者 宮川 正生（八幡野区長） 小内 正敬（PTA 会長）
石井 照市（富戸区長） 日吉 基史（学識者）
田畑 朝恵（コーディネーター） 和田 元気（元協議員）
荒井 威雄（校長）
*山口 奈美（母親代表）、佐藤 功次郎（元評議員）は欠席
- 4 事務局 杉山 正晃（事務局） 佐藤 領（事務局）

5 会議の経過

（1）開会通告（小内委員）

（2）校長挨拶

元日の能登地震は生徒にとってインパクトが大きく、現在実施している校長面接の中でほとんどの生徒が話題に挙げている。3年生は高校受験に向けて準備をしている。

1・2年生は学力調査の結果を受け、学習に取り組んでいる。それぞれの思いをもってがんばっている。

（3）議事

①学校運営について

校長：学校運営協議会なので、今年、取り組んできたことに対して評価をしていただき、来年度の計画について承認をしていただくのが今日の主な内容になる。

（資料をもとに説明）

- ・この資料は、1学期の取り組みをまとめて、教職員に伝えたものである。土台づくりがメインであった。校内に美術作品が多いが、ここ数年、美術の作品をしつかりつくって掲示している。アートのある学校と呼んでいる。先輩の作品をみて、またそれが在校生に引き継がれるというよい循環ができている。また、花のある学校ということで、今年度コミュニティ・スクールが始まり、田畑さんに紹介していただき、■■■■先生に来ていただいている。また、生け花にかかる費用は小内PTA会長に相談し、PTA会費より支出していただいている。生け花についてはPTA運営委員会でも報告したり、ホームページに載せたりしている。
- ・学級経営や力を入れていくことを目に見える形で生徒に示したい。見える化と呼んでいる。ただ、時間がかかることなので、時間を捻出することが課題である。図書室のドアをとり、変わった。司書の■■■■さんを中心に、廊下の展示などつく

1/1

- ってください。面接練習で質問すると、3年生は自分の好きな本をもって、その話をすることができることから効果を感じている。
- ・子どもの生活を子どもにつくらせたい。前期は「華」、後期は「DO OUR BEST」という生徒会目標であるが、それに向かっている。学習に力を入れていく。子どもが食いつくような授業でないといけない。よい授業を紹介し、教員同士授業を見合う会を行い、互いの授業を参観することで学び合っている。
 - ・中学校では学年主任者会において、様々なことを検討し、決定している。それを主任から各学年部の教員に伝える。その学年主任者会で使用している資料の紹介をする。対中祭体育の部については、当日までの動きがわかるような写真を載せた。1年間を5つのステージに分けて、ステージの最初には必ず集会を行い、何を意識するか生徒がわかるようにしている。ペッパートーク（本来はペップトーク）を研修部が提案し、行った。その取り組みを広げたいと、生徒会でも体育の部の前に異学年生徒との交流を計画、実施した。5ステージ共通の取り組みとして、「時を守り、場を清め、礼を正す」ということを実践している。これは対島中校区の3小学校とも共通して進め、徹底できるようにしている。また、最近の第5ステージについては、1年を振り返り、次につなげるというステージの目標に対して校長としての考えを出し、細かい所は各担当、各学年で考えていくようにしている。
 - ・不登校については、同じ資料を対島地区の民生委員の会議でも出している。対島中の現状としては来られない子もいるし、来ない子もいる。合計して19名であるが、完全に来られないのが数名、あとは遅刻して来る生徒やなぎさと学校に通っている生徒などがいる。対島中で考えると8.3%で、県平均の5.8%より多くなっている。今後人数が減っていったとしても、困っている子がいる以上、手を差し伸べないといけない。教室へ行かなければならないという考えは捨てている。家に引きこもらないようにしていくことが大切だと考えている。このことを民政委員の会議に参加して報告した。理解してはもらったが、具体的に何をすればよいかまではわからないというご意見を伺い、時間がかかることを感じている。
 - ・対島中地域学校協働活動について、地域学校協働本部というものがあり、これまでは、バラバラにお願いしていたものを田畑さんにコーディネーターに窓口になっていただき、地域をつながっていく道筋をつくっていただいた。今年度の内容としては、①総合的な学習の時間において福祉をテーマに学習を行う際、講師を呼んでくることができた。また、終日総合において、段取りをしていただいた。これまでは、学年主任や教頭が行い、ものすごく時間がかかっていたが、それを任せられることで、学校は子どもの指導の方に力を入れることができた。②生け花の先生を紹介していただいた。費用の面はPTAに協力していただいた。③不登校対策として、主任児童委員から声をかけていただき、会議に参加することができた。課題としては、つながればつながるほど、田畑さんの負担が大きくなってしまう。組織としてやっていかなくてはならないと感じる。地域地域というが、多くの方が昼間働いている。そういう事情も今年度把握したので、昼間も活動し

47

ていただける方を吸い上げていくようにしたい。

- ・来年度については、生け花を継続する。総合的な学習の時間を2年生でも拡大する。学校を綺麗にしたいので、協力していただける方がいれば、定期的にお願したい。学力がけっして高くないので、月曜日や水曜日など部活動のない曜日に教室を開放して生徒が質問できるような環境をつくりたい。全部はできないかもしれないがひとつでも実施したい。
- ・来年度の学校にグランドデザインについて、教職員に示したものをもとに説明したい。学習と特別活動（自治的活動）の2本柱を前面に出したい。これらを機能させるのが、生徒指導、外部との連携、安心・安全な環境である。また、レジリエンスの視点を取り入れる。先日、スクールカウンセラーが講師で保護者向けの講演会を実施した。その中では「竹のようなしなやかな心を身につける」という話があった。人間関係を苦手になっている生徒もいるので、この視点を取り入れてやっていきたい。教職員とはこの構想をもとに、これでよいのか検討をしていき、変えた方がよいところは変えていく。

委員：ご意見、ご質問があればお願いしたい。

委員：理路整然としていて、内容はよく理解した。3点質問、意見をお願いしたい。
不登校児童生徒数について、昨年度の伊東市全体の数は把握しているか。

校長：市の会議を毎月実施していて、その中で数の把握をしている。その資料がここにないため、ここで即答はできないが。

委員：私が調べたところ141人、その中で復帰可能な人数が35人、適応指導教室を利用しているということだと思う。資料にもあるが、不登校の割合が高い。市は小学校2.6%、中学校は7.6%ということで上昇傾向にあると考える。ぜひ手を差し伸べる考えを主にして進めてほしい。2点目がグランドデザインについてで、4月からスタートすると思うが、「レジリエンスの視点」に力を入れていただければと思う。3点目に資料の中にもあるが、土台づくりが重要だと思う。アートのある学校、花のある学校、どんどん前に進めていただきたい。

委員：1年を通して、荒井校長の受け止め、ご自身ではどう感じているか。

校長：この1年は対島中を知る1年であった。対中祭では、生徒が自分たちでタブレットを使って準備をしてみた。この生徒の力を使わない手はないので、来年度は自治に力を入れていきたいと考えた。学習は課題なので、ここに力を入れていきたい。もっと自分たちで意見を言っていこう、つくっていこうというところに行き着いた。けっして駄目なわけじゃないので、これをベースにしていくというイメージがもてた。

3/7

委員：主体的にという言葉が幼稚園、保育園、小学校にも広がり、言葉が注目されている。授業ではやらなければいけない範囲がある中で主体的にということで、学習の範囲が追いつかない可能性があるのではないか。今後の人生で大切だとは思いますが。

校長：やらなければいけないことは決まっている。主体的については、単元の中でやれるところ、教えこみのところを分けていく。やり残しは絶対許されないの、やり残しがでるくらいであれば、教え込みの方がよい。主体的というのはレベルが高いことなので、難しいが、教員は今研修しているところである。

委員：様々な行事があり、生徒の主体性が見えている中で、それが授業にどう生かされるが楽しみである。小学校でもやりたいが、やらなければいけないことが多すぎて難しいと聞く。

校長：市の方で、ネットワークでつなぐことができるようになった。校務支援システムで他校の教員が考えた授業案を共有できる。時間の削減になっている。

委員：今回、福祉体験を行った。コロナで3年間はなかったので、施設では受け入れに消極的であった。生徒のまとめと発表を聞いた。今家庭環境が変わり、おじいちゃん、おばあちゃんと暮らさなくなった。そのようなこともあり、「年をとると、みんな認知症になると思っていたけど、そうじゃなくてびっくりした。」という感想を言っていた。体験をすることが刺激になるのかと思う。先日、小学校5年生の保護者と話をする機会があった。自然教室に2日間行けて、自然と関わることができてよかった。中学生になったらもっと入れてほしいという話であった。対島地区は自然が多いのに、触れる時間がない。難しいとは思いますが、学習面と合わせてやればよいと思う。

校長：9年で子を育てるという視点をもつとよい。先日、対島中学校区の小学校と4校で話をすると、総合的な学習の時間で小学校では自然についてやっている。中学校でさらにというのは難しいかもしれないが、もしやれるとしたら、総合的な学習の時間のテーマ学習では可能だと思う。今すぐには難しいかもしれないが、ここにいるよさを生かすことは重要だと感じる。

委員：校長先生から説明があったが、思いがとても強いと思う。授業を見て回ったが、授業の様子は落ち着いている。電子黒板やタブレットを使っていて、変わってきたと感じる。また、司書が特集のコーナーを作って、よい仕事をしている。eスポーツや防災などタイムリーのものを取り上げ、興味を持たせるのが大切だと思った。3年のテーマ学習のまとめを見たが、伊東市の観光やゲーム、漫画、スポーツなど人それぞれのテーマを自主的にやっている。中には「色と人の心理について」「言葉と寿命」など対島中の生徒は成長しているのを感じる。子供の評価、保護者や先生の評価を軸として、これが一致していければよい。校長からの

4/7

トップダウンじゃなくて、これから3学期に検討していくのがよいと思った。レジリエンスの視点と書いてあるが、例えば、その視点の授業とは考えると難しい。名前だけになってしまうので、具体的な姿が示せるとよい。田畑さんが福祉についてのところで、コーディネーターとして活躍していただいた。数年前は自分でお願いしていた。どういう目的でやるのかを明確にしたい。その上で、自分でやる場所、田畑さんにお願いする場所をはっきりさせるとよい。

委員：職業については、個人個人が決めて体験すると聞いていた。

委員：福祉でも個人でやっていたときもあった。例えば、先生が何でもかんでもコーディネーターにお願いするのは違うと思う。

校長：職業体験は復活しないと思う。おそらく夏休み中に家庭にお願いしてという形になるのではいか。講話を終日総合に行うことになると思う。

委員：伊豆高原地区には素晴らしい方がたくさんいる。南極に行った方、日本郵船で世界中を回った方など、そういう人ともつながっていければ、視野が広がる。

校長：職業はそのような形で行い、福祉は今年のような形で行うと思う。

委員：今年、伺った施設は、子供たちがすばらしいから、また来てほしいということもある。

校長：丸投げにはならないように肝に銘じていきたい。

委員：の意見と関連するが、コーディネーターは組織化し、人数を増やしていかなければならない。いろいろな意見を聞きながら、子供だけでなく、学校だけでなく、小学校とは違うところがあると思う。範囲が広くなることを考え、いろいろな意見を聞いて取り入れて、どうするかを聞くということが必要。そのような形で進めていく必要がある。

委員：コーディネーターをなかなか引き受けてくれる人がいない。

校長：田畑さんがパンクしないように、力を貸してくれる方が出てくるとよい。お知り合いがいたら声をかけていただければ。

委員：いろいろな形で話をし、1人でも2人でも増やしていくことがよい。

委員：不登校については伊東市の課題であり、ずっと続いている。学校は子供や家庭とつながりはもつということをしていくと思う。来れる場合もあれば、来れない

57

場合もあるが、学校はつながりはもたなくてはならない。人数をカウントすると、日がたつにつれて欠席は増えていく。なかなか解消はしない。課題なのだから伊東市としてどのように取り組むのかをつくっていかなければならない。

校長：市も考えてくれてはいるが、追いついていかない。

委員：具体的に何をしているか見えない。

校長：慈眼寺も関わっている。こういう施設が増えてくるとよいが、数が少ない。どことつながればよいかわからない。対島地区にはない。電車で伊東まで行かなくてはならない。

委員：なぎさを対島地区にもほしい、宇佐美地区にもほしい、そういうことを提言する。

委員：欲しい。それぐらいしか逆にできない。

委員：コミセンに行けば、勉強できる環境もあるとよいなど。

委員：県や国の不登校に対する指針はあるか。

校長：指針はある。居場所をつくりなさいとは出ているが、十分ではない。

委員：国に出してもらわないと。

委員：対島地区で困っていることを挙げればよい。

校長：行く手段がない子もいる。距離を解消すると変わる可能性がある。

委員：地元の代議員にお願いする。国にいかないといけない。

委員：静岡県の薬物乱用防止協議会の理事、ライオンズの委員長をやった経験がある。これまで3回、日本大学の入学式で薬物乱用防止の話をしてきた。去年11月20日中央区立宇佐美学園で話をした。中学校だと薬物教室を実施しているが、違う内容で話をした。たばこ、シンナー、アルコール、大麻、覚醒剤などをやると自分の人間形成をしていく上で、絶対だめだという話をしている。そういう時間をとっていただけるか。

校長：薬物教室というはある。

4/7

委員：ライオンズクラブの認定講師であるので、教室や集会などで話をしたい。先日は、学業の一環として1時間10分話をしてきた。中学校3年生は高校入学を控えている。たばこ、シンナー、アルコールなど興味範囲でやってみたいという思いをもったり、先輩から誘われてということもあったりする。大麻グミで大人も倒れたという騒ぎもあったが、子どもたちの知識として、修善寺小学校でもやったが、対島中学校でのぜひ時間をとっていただきたい。

校長：検討する。

【事務連絡】

教頭：今年度、田畑さんのおかげで、福祉のこと、体験活動のことが進められた。また、PTA行事も復活したり、精選したりすることができた。来年度は4月に実施したいと思う。

②その他

委員：議題のその他の項目ということで2点お願いしたい。1点目は、本日の授業参観のときに体育館に行った。鉄柱がはげていて、見栄えがよくない。市、教育委員会の方に訴えてもらって、予算化してもらい、きれいにしていただきたい。もう1点は、前校長の話だと、対島地区は4地区長がいて、学校運営協議会の中にはそのうち2人が来ている。1年ごと1人抜けて、新しく1人入るという形を聞いた。来年度は、八幡野区長が残って、池と赤沢どちらかが残る形でお願いしたい。

校長：来年の人選については、またご連絡したい。

(4) 閉会通告（小内委員）

7/7